

第1回北上市文化芸術推進会議報告書

日時 令和6年6月21日(金)
午後2時～4時30分
場所 北上市生涯学習センター
第1学習室

【出席者】

中川幾郎会長、阿部武司委員、八重樫信治委員、板垣崇志委員、阿部大司委員、豊泉豪委員、千葉真弓委員、高橋京佳委員
中島辰也課長補佐、小泉由美子係長、川村明子主任、和泉淳樹主任

【会議の主旨】

- ・令和5年度文化芸術関連事業の総括について
- ・令和5年度成果指標の分析について
- ・令和6年度文化芸術関連事業の中間報告について

【主な意見】

(1) 令和5年度文化芸術関連事業の総括と(2) 令和5年度成果指標分析について

- ▶ 何人が芸能まつりに参加しているのか、入込数だけでは成果が見えない。
観光客ではなく、まつりに市民がどのくらい来ているのか。市民の参加を促すことが大切である。
- ▶ 出演する民俗芸能団体数は増えているが、あくまで述べ数なので、件数だけでは評価が難しい。
民俗芸能団体への支援を検討したほうがよい。GEINO女子公演など。
- ▶ 民俗芸能団体の担い手不足についても取り上げてもらいたい。
- ▶ 文化芸術施設の入場者数、各施設の内訳は。

項目	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績
樺山歴史の広場入場者	7,329	7,448	6,173	5,338
博物館本館入場者	10,089	6,797	7,541	9,107
博物館和賀分館入場者		3,751	2,801	3,382
鬼の館入場者	14,186	13,412	17,914	28,298
民俗村入場者	21,652	27,520	31,259	29,437

- ▶ 障がい者福祉展は物販色が強めであり、障がい者の成果発表の機会としては弱い。
- ▶ 障がい者に特化したイベントではなく、市民芸術祭のような一般参加のイベントの中に、ポードレス部門等、障がい者も参加しやすいしくみを作ったほうがよい。
- ▶ 障がい者の参加は、支援者（施設関係者・家族）に大きく左右される。支援者への働きかけも重要。
- ▶ 住民自治と団体自治があり、地域でできることは地域で。地域でできないような専門性と高コストの部分や、公共性や公平性等届かない所へのリーチを公共で担うべきである。
- ▶ 芸術文化協会はアーツカウンシル（芸術と他分野をつなぐコーディネート）のような役目は果たせないのか。市民芸術祭は「発表の場の推進」という目的で行われてきたことは理解できるが、20～30年前の考え方である。自分たちがやりたいことを披露するだけでは不足している。自分たちのコンテンツを使った地域貢献・社会貢献ができる団体にこそ補助を出すべきである。
- ▶ 補助金を出す事業は「公共事業」である。自分たちの作品発表だけでなく、市民が芸術によって何か享受できる「公共性」があるものでなくてはいけない。
- ▶ 市民芸術祭は20代が何かしたくなる・乳幼児連れが参加したくなるようなものが少ない。愛好家の発表とは異なる、不足している部分への補助を検討したほうがよい。
- ▶ やりたい人を応援、できない人が相談できる場のしくみづくりを。
- ▶ 市民芸術祭は、参加しやすさを考えた場合、部門を区切って「絵ハガキ部門」など、小さいサイズの作品を募集するなどの工夫を。
- ▶ 文化芸術は努力してもよく「PRが不足している」と言われる。SNS等が主流になってくるかと思うが、ジャンルによっては年配者の多いコミュニティがあり、どうしても紙媒体中心になることがある。
- ▶ 美術館通信もHPで発信しているが、ネット中心で発信しても必要としている層に十分にいきわたるかは疑問。
- ▶ 戦争を考える時期に利根山光人の「ナガサキ・ヒロシマ」の絵を平和記念館で展示する、まつりの期間に民俗芸能の絵を公開するなど、時期に合わせた展示があるとよい。
- ▶ ここで議論する話ではないかもしれないが、美術館入館料は市内の小中学生は無料でよいのでは。
(※→会議の場では補足できておりませんでした。H30年度から市内の小中学生は既に無料です)

- ▶誘致企業へのアプローチも今後大事になってくる。参加を促せるネットワークの構築を。
- ▶民俗芸能団体に何に困っているかを聞くとよく金銭面について話されるケースが見受けられるが、補助金だけで解決できる話ではない。何に困っているか、何にどれだけ必要なのか詳細に把握を。
- ▶民俗芸能の衰退は、地域の文化活動停滞である。廃校活用など、文化施設・文化活動の場の拡充を。
- ▶絵画教室は、月2回で脱落する方がいるのなら、月1回で1年かけてやるという手もある。
- ▶絵画教室は、画材の準備等ハードルを低くしてはどうか。

(3) 令和6年度文化芸術関連事業の中間報告について

- ▶鬼のモニュメントは想定より多くの市民が参加したようで、よい取り組みだったと思う。
- ▶絵画修復見学会も、本来見せない美術の裏側にこれほど多くの方が興味をもったというよい例である。
- ▶アウトリーチする場合は、NPOや専門家に依頼したほうがよい。プロや専門家のほうが子供たちに影響力がある。
- ▶障壁を取り除く方法としては、市民芸術祭にボーダレス部門を設けたり、写真のカテゴリにスマホ部門を設ければハードルは下がり、入り口は広くなると思われる。
- ▶障壁調査については施設のハード面とソフト面、両方あるので整理を。また、ヒアリンググループなど“不便さを解消する機材”が市内のどこに設置されているか事前に把握してもらいたい。
- ▶県の「障がい者芸術活動支援センター“かだあると”」に相談を。
- ▶※障壁調査の部分については欠席委員からもご意見をいただいておりますが、時間がなく会議の場でお伝えできなかったもので、以下ご紹介します↓

「参加しにくい方の障壁調査」は非常に意欲的な取り組みだと思い注目しました。特に手法がデザイン思考にも共通するものがあってユニークだなと思います。こういう、サイレントマジョリティの実態や意向を把握するのはなかなか難しく、たとえば「子供が欲しいと思っているけれど実際には持てない（持つ選択をしない）」層には具体的にアクセスしにくく、本音をすくう政策が打ちにくい訳です。なのでこのプロジェクトが成果を上げるようであれば、市の少子化対策はじめ色々応用可能性もありそうなので、今回、調査プロセスも含めて丁寧に検証しつつ進める、成果や課題を他部署とも意識的にシェアする、といったことが望ましいと考えました。

4 その他

【会長の総括：令和7年度に向けて】

- ①条例の考え方を周知するため、文化芸術のチラシポスターには「このイベントは条例●条に基づく“～”の事業です」などのクレジットをいれること。
- ②障がい者が参加しやすい文化芸術発表の場を確保すること。
※現在福祉課で行っている「地域活動支援センター補助金」に含まれている障がい者の文化芸術活動は何を行っているのか報告を（資料中の報告だけでは見えにくい）。創作の場・披露の場が不足している場合は補完を検討すること。
- ③企業との連携や共同実施できるものがないか検討を。
- ④北上版アーツカウンシルの検討。まずは、「学校と文化芸術をつなぐヒト・モノ」「各施設と文化芸術をつなぐヒト・モノ」「子どもと芸術家をつなぐヒト・モノ」「芸術家と地域をつなぐヒト・モノ」などは現状北上市にあるのかをまずは見える化すること。
- ⑤世代別・カテゴリ別にアプローチするアートを検討すること。
 - ・0～3歳のアートスタート
 - ・3～6歳児のミーツアート
 - ・病院や介護施設へのアートデリバリー など

【次回会議】

令和6年7月26日（金）午後2時を予定